

くるはら

2017(平成29)年8月10日

第 53 号

発行 来原地区コミュニティ
づくり連絡協議会

編集 広 報 部

第4回消防操法大会開催!



地域の安全と
安心を守る!



コ連協会長就任にあたって



来原コ連協会長

秋 國 満

来原地域の住民の皆様こんにちは、お元気でお過ごしでしょうか。

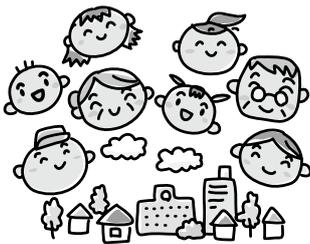
私は今年のコ連協の総会に於いて、第五代のコ連協会長という大役を担うことになりました秋國満と申します。

長年、来原地域を引っ張って来て頂いた平野前会長には、長い間本当にご苦労さまでした。感謝申し上げます。

今、来原地域は他の地域同様の多くの問題を抱えています。

児童数減少による来原小学校の統合問題、高齢者の一人暮らしの増加、空き家の増加、人口減少による限界集落の問題、若者定住の問題等身近な事ばかりです。コ連協として何が出来るのか役員一同話し合っって一歩前に進みたいと思います。住民の皆様は「来原に住んでいて良かった」と実感していただける様に頑張っていきたいと思ひます。コ連協の活動資金である市よりの助

成金等も今年は大幅に削減され大変厳しくなっています。質を落とさず、今まで同様の活動ができる様に、役員一同知恵を出し合っってみたいと思ひます。住民の皆様もコ連協の行事等には、積極的に参加して地域を盛り上げていただきたいと思ひます。終わりにになりましたが、暑さ厳しい折、お身体には十分気をつけられます様にお願ひいたします。コ連協の役員も、今後の行事等に頑張りたいと思ひます。



新体制にてよろしくお願ひします

副会長
亀井 聖さん



昨年度まで、コ連協副会長を務めておられました秋國満さんが、今年度、コ連協会長に就かれましたので、同副会長に私が就くこととなりました。力不足ではありますが、これまでの経験を生かして、地域のコミュニティづくりにお役に立ちたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

副会長
猪掛 公詩さん



副会長として2期目となりました。今年度は役員交替もあり、これまでの活動を受け継ぎつつ新しい風も入れていかねばと思っっています。皆さんにもコ連協の活動に様々な形でご参加頂き、誇りを持って住み続けられる地域を一緒に創っていきましょう。よろしくお願ひ致します。

副会長
藤田 康子さん



副会長を引き受け、責任の重さに戸惑いを感じております。微力ではありますが、新会長、副会長の指導のもと、稔りのある来原コミュニティになるように努力します。皆様のご協力宜しくお願ひ致します。



おいしいね ～げんきな身体と心を～

くるはら保育園では、菜園活動をもとに食育に向けての取り組みを行っています。一年一年の積み重ねから、野菜のおいしさを感じるようになった子どもたちです。春に収穫したそら豆は、ホイルの包み焼で食べました。その際、さやのふわふわのわたげ部分も「あま

～い!」と喜んで味わい、自然の味を堪能していました。

さて、今年度も5月に“なかよし会”の皆様を手伝っていただきながら、スイカ、メロン、トマト、ナス、ピーマン、パプリカ、キュウリ、サツマイモなど夏野菜をたくさん植えることができました。子どもたちは、この野菜を使って夏野菜カレーをクッキングすることをとても楽しみにしています。

6月には、梅ジュース作り、7月は紫蘇ジュース、しばもち作り、8月はカレークッキング、10月は干し柿、11月は焼き芋、12月は芋汁クッキング、1月は餅つき、干し大根作りをはじめ、年長組は毎月お誕生会の日に、手作りおやつを作っています。

このような食育活動を通し、1、健康な身体づくり 2、やってみようとする意欲 3、感謝の気持ち を育てていきたいと思います。

このような活動ができるのも来原地域の皆様のご支援、ご協力のおかげと感謝しております。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。



魅 せ る !

来 原 魂 !!

来原が好きですか？

毎年、県内の五年生が実施している「基礎・基本定着状況調査」の「児童質問紙」に、「自分の住んでいる地域が好きです」という項目があります。平成二十八年年度の県平均は、「Aよくあてはまる、Bやや、Cあまり、Dまったく」の順に68%、23%、7%、2%でした。

では、来原小学校はどうでしょう。

平成二十七年年度までは、県平均に近い数字でしたが、平成二十八年年度はAから順に73、27、0、0。今年度は78、22、0、0でした。

つまり、来原小学校の子供はこの来原地域に、県内のどこにも負けないくらい自信と愛情を持っているのです。なんと素晴らしいことでしょう。

これからも、地域の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、「安芸高田協育」の基本理念である「故郷(ふるさと)を想い 夢と志に向けてともに学び続ける人づくり」に邁進していきたいと思えます。



安芸高田市立
来原小学校長

高坂 広昭



来原さんばい祭りを終えて

文化部長 上 野 一 彦

第39回来原さんばい祭りも地域の皆様、ステージ発表の出演団体の方々、ご参加をいただき、祭りを盛り上げていただきました。

来原コ連協の役員の方、また関係者各位の皆様それぞれの役割のところで責任を全うしていただき、この祭りが盛会にできましたこと、スタッフ一同より厚く御礼申し上げます。

今年、来原コ連協も役員改選により、四月より秋國満新会長を始め、新体制でスタートしました。

一年間の行事活動計画をたて、いかに実行していくか役員一同心を一つにしたところでございます。

しかし、年間行事を行うに当たり行政も財政厳しく助成も減り、縮小緊縮しなくてはならない状況ですが、皆様方のお力添えをいただき、一人一人の智恵を出し合いながら、乗り越え頑張って参りたいと思います。皆様方のご指導、ご支援、ご協力を承りますようお願い致します。



第39回 来原さんばい祭り



福祉バザーの報告

福祉部では、女性部と民生委員・児童委員で今年も「福祉バザー」を開きました。みなさんからたくさんの生活用品等を提供していただきました。売上金額は、46,940円でした。福祉基金へ繰り入れて、春と秋の福祉弁当資金に活用させていただきます。皆様のご協力に感謝いたします。

【第4回消防操法大会が開催されました】



安芸高田市消防団の第4回消防操法大会が、6月18日(日)に消防ヘリポートで開催されました。

市内6町の方面隊から各1チームが出場し、高宮方面隊からは第1分団(原田)、第2分団(来女木)の合同チームが出場しました。

1チーム5人で小型ポンプとホース3本の連結等を行い、火点の放水までの速さと規律を競うもので、選手は、4月から週2〜3回の練習を重ね、30回にわたる厳しい練習を乗り越えました。

当日は、新庄勇二さんが全選手を代表して選手宣誓を行い、高宮方面隊チームはトップで出場し、練習の成果を出し切り、素晴らしい操法を披露し、3位に入賞しました。

選手の皆さん、大変お疲れ様でした。尚、優勝した甲田方面隊は、9月2日の県消防操法大会へ出場します。ご健闘をお祈りします。



【選手】

- 指揮者：山縣 武司さん(第1分団)
- 1番員：南 昌宏さん(第2分団)
- 2番員：猪掛 真詩さん(第1分団)
- 3番員：遠野 豪紀さん(第1分団)
- 補助員：新庄 勇二さん(第2分団)

高宮春風館 地域の育みとともに

高宮春風館は、平成17年に発足し今年で12年目を迎え、来女木剣道スポーツ少年団OB会「春霜会」の指導のもと、現在は幼児から中学生まで17名で活動を行っています。

練習は、来女木公民館で週3回、約2時間稽古を行ない、週末には県内の大会へ参加や、他の道場と合同稽古、級(段)取得審査にも挑戦しています。また、クリスマス会、卒業生を送る会などメンバー同士の交流も大切に行っています。

今年5月には、剣道というスポーツを広く知ってもらおうと「剣道体験会」を初めて開催しました。この体験会をきっかけに3名の子どもさんが新たに春風館に加入し日々練習に励んでいます。さて、7月に東京武道館で行なわれた全国道場少年剣道大会出場の際には、立派な横断幕を作成していただき誠にありがとうございました。



高宮春風館 館長 田中 道俊

うございました。今年は、2年ぶりに小学生と中学生揃っての出場となりました。結果は、小学生は残念ながら3回戦敗退でしたが、中学生は予選トーナメントで第14試合会場第3位となり、出場424チーム中ベスト64という成績をおさめることができました。これは、地域の皆様の応援をいただきながら自身の持てる力をめいっぱい発揮できた結果です。誠にありがとうございました。これからもどうぞ応援よろしくお願いたします。

私たちの住む来原地区の人口状況

来原地区の人口の推移を平成24年と29年の人口ピラミッドの比較から、そして現在の人口状況等をご紹介します。

表1と表2のように、平成29年4月1日現在、世帯数は490世帯、人口は1,153人、高齢化率42.3%です。490世帯のうち約45%を占めるのが65歳以上の世帯、そのうち55%が一人暮らし、残る45%のほとんどが2人暮らしです。

表2の年代別人口比を円グラフにしたのが、図2です。

図1の平成24年と平成29年の人口ピラミッドは、ピラミッド型とは縁遠く、どちらも瓢箪ひょうたんを逆さにした形ですが、平成29年になると、特に瓢箪ひょうたんの括れた部分くびが目立ちます。この括れは、社会人となって地域外に出ていく年代25~30歳台に当たります。

また、図3の棒グラフでは、65~69歳のいわゆる団塊の世代の人口が突出し、地域の大きな力となっているのがわかります。

5年後、10年後の来原地区をどう描くのか、今だからこそ、皆様とともに描き上げていきましょう。

【表1】高齢者の世帯状況

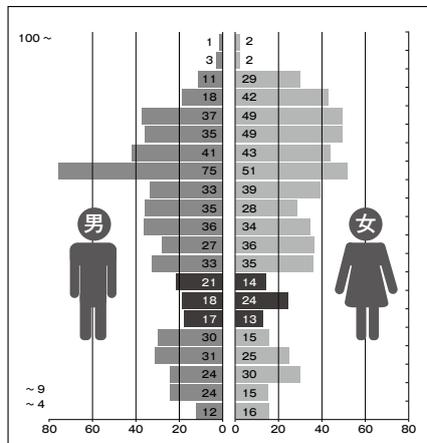
世帯数 490世帯	65歳以上のみ	220世帯
	独居	120世帯
	2人世帯	95世帯
	3人世帯	5世帯
	4人世帯	0世帯

【表2】年代別人口

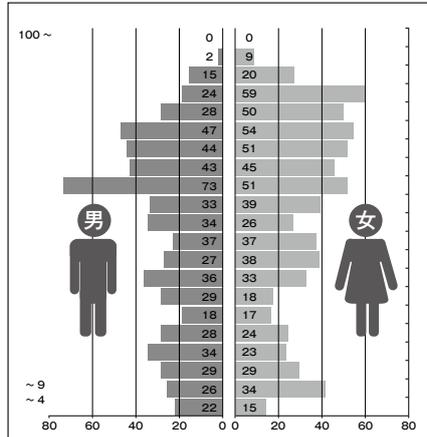
	年 代	人 数 (%)
人口 1,153人	高齢者人口 (65歳以上)	488人 (42.3%)
	生産年齢人口 (15~64歳)	544人 (47.2%)
	幼年(年少)人口 (0~14歳)	121人 (10.5%)

※塔が峰行政区を除く。外国人を含めた平成29年4月1日現在の人口

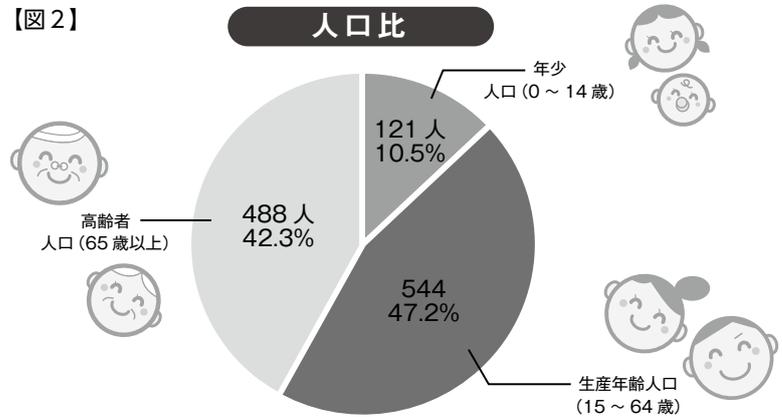
【図1】人口ピラミッド (平成29年4月1日)



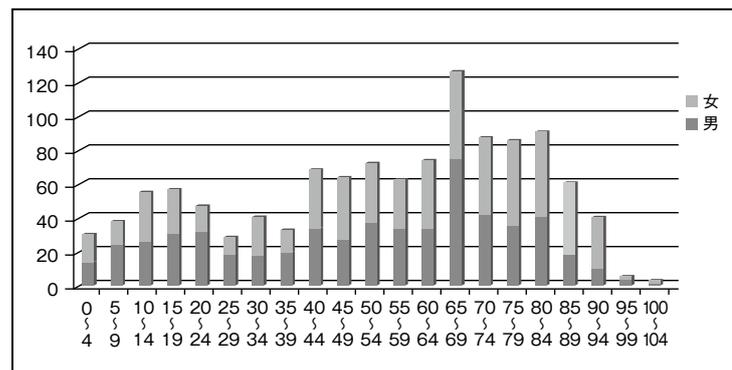
(平成24年4月1日)



【図2】



【図3】高宮町来原地区年齢別男女別人口グラフ



※塔が峰行政区を除く。外国人を含めた平成29年4月1日現在の人口

平野 前会長 お疲れ様でした

去る4月22日来原コ連協役員改選を伴う総会に於いて新しい執行体制が誕生しました。

私事 前会長 故木下辰男氏から引き継いで19年間会長として地域の皆様をはじめ各方面からご協力ご指導を頂きましたこと、先ずもって心より感謝申し上げます。

私が来原コ連協と直接関わりを持ったのは、昭和50年代来原小学校PTA会長時・昭和52年の来原小学校創立100周年行事・昭和54年現来原小学校体育館建設協力委員会で、地域の皆様に大変な協力を頂いた時よりが始まりと思います。

そして、平成10年3月農水相を定年リタイヤした時、来原コ連協誕生20年の節目の役員改選で会長という大きな荷物を背負いましたが、多くの皆様方のあたたかいご指導とご協力を得ながら、地域振興の基本とも言われる住民自治のまちづくりを推進した19年間でした。その間、来原コ連協としての取り組み・たかみや大地の祭り・たかみや湯の森誕生とその運営・平成の大合併に伴う安芸高田市の誕生とまちづくり委員会・公共交通協議会への関わり等々のなかで、多くの人々との出会いが私にとっては大きな財産となりました。

これもすべて地域の皆様のご指導、ご協力があったからこそと深く感謝いたします。

今後は秋國新会長を中心に一層躍進することを祈念申し上げ、お礼いたします。



2017年度 来原地区コミュニティづくり連絡協議会役員名簿

Table with columns: 行政区名, 推進委員, 女性部連絡員, 色別理事, 顧問, 執行部. Rows are categorized by region: 赤, 緑, 黄, 白, 紫, 茶, and 合計.

『くるはら』の神社めぐり〈貳〉

原田八幡神社

はらだはちまんじんじゃ
祭神 品陀和気命
例祭 九月十四日
高宮町重要文化財 絵馬「白鷹図」見玉希望作



近代日本画の巨匠、見玉希望(本名省三)は、明治三十一(一八九八)年七月五日当地(原田)で生まれた。

絵馬「白鷹図」の鷹は、外形や羽の輪郭を細線で描き、その中に白彩色を重ねることで量感を表現している。筆法は比較的単純であるが、板の柾目やその地色とのコントラストの中で空間的広がりを感じさせる。

この絵馬は、昭和十五(一九四〇)年、希望四十二歳のときの作品である。十三歳のとき原田・簾八幡神社の絵馬「武者図」とともに故郷の神社に奉納したもので、少年期と大成した後の作品とを対比できる興味深い資料にもなっている。

原田八幡神社は、「芸藩通志」によると「元

和三(一六八三年)「巳亥建」とあるが、創祀はもっと古く、杜家の記録などから、鎌倉時代に遡るものと考えられる。

関連神事として、国指定重要無形民俗文化財「安芸のはやし田」(原田はやし田)神事があり、例祭(前夜祭)では、広島県無形民俗文化財「原田神楽」が奉納される。



平成十四年三月二十五日

高宮町教育委員会
高宮町文化財保護審議会



原田八幡神社アクセス

☆「連協等行事予定」

- 9月9日 高宮中学校ナイター運動会
- 9月24日 来原小学校運動会
- 10月7日 くるはら保育園わんぱく運動会
- 10月15日 敬老会
- 10月22日 第35回たかみや大地の祭り
- 11月中旬 福祉弁当高齢者訪問
- 11月下旬 原田神楽団太刀納め・原田客祭り
- 11月23日 来女木客祭り

「連協への篤志寄付に 御礼申し上げます」

岩崎 里市様(原田、95歳)

お知らせ

●お太助フォンを使った役員間の連絡は、部長会議にて停止することとなりました。ご協力ありがとうございました。

●クマ出没 注意!!
最近、来原地域にてクマの痕跡や目撃情報
が寄せられています。

編集後記

今号の一面を飾るのは、消防団の勇姿です。団員の方々は、仕事をしながらも、訓練を重ね、地域における消防防災のリーダーとして、地域に密着し、住民の安心・安全を守っておられます。災害がないことが一番ですが、地震、台風、噴火、暴風雨など、日本の各地で起きる数々の災害を見ると、改めて日本は自然災害の多い国だと気づかされます。避けることはできませんが、少しでも人的被害や物的被害を軽減する「減災」に向けて、わが家からそして地域から備えていきましょう。

「備えあれば憂いなし」